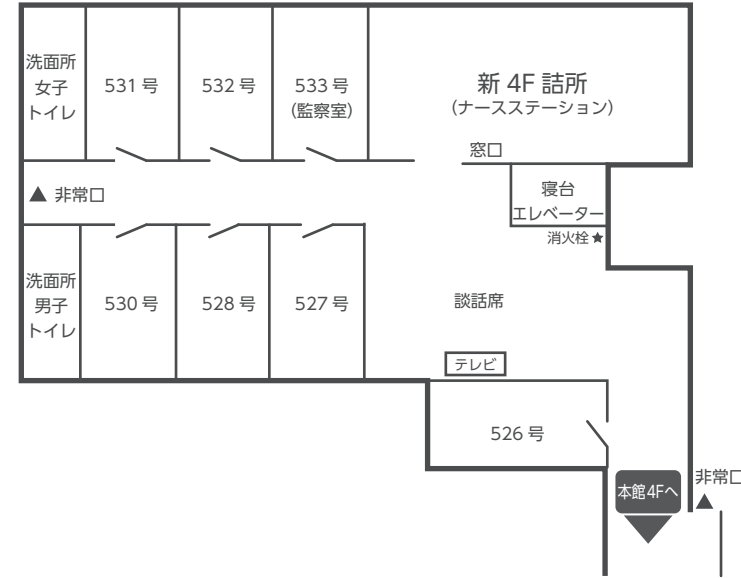
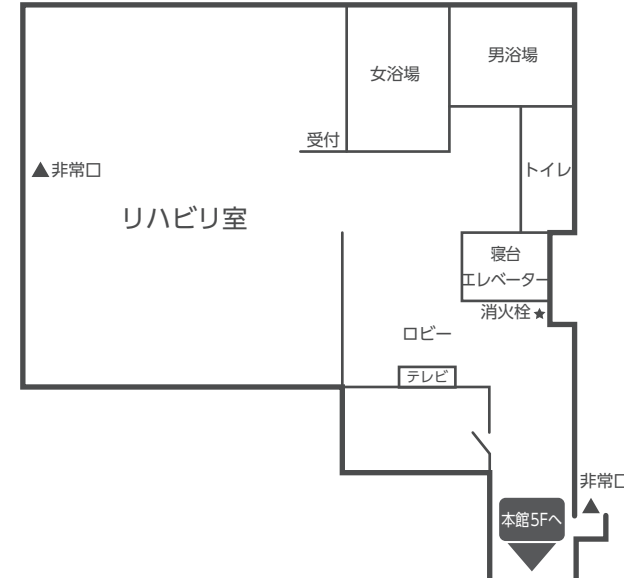


◆新館 4階 回復期リハビリテーション病棟 案内図



◆5階 リハビリセンター 案内図



周辺 Map



Access

- 車
名神高速茨木インターから国道171号線へ入り、すぐ
- 阪急バス
春日、中央図書館前より徒歩5分
- JR京都線
茨木駅から 送迎バス運行
- 阪急京都線
茨木市駅から 送迎バス運行

駐車場完備

回復期 リハビリテーション病棟

ご案内



医療法人医誠会
茨木医誠会病院
Ibaraki Iseikai Hospital

〒567-0028 大阪府茨木市畑田町11-25
TEL. 072-627-7771 FAX. 072-626-2586

URL : <http://www.mmjp.or.jp/ibarakiis> Mail : ibarakiis@medical.email.ne.jp

医療法人医誠会
茨木医誠会病院
Medical Corporation ISEIKAI

回復期リハビリテーション病棟をご存知ですか？

脳血管疾患や下肢の骨折、また肺炎などの治療中の安静によって体力が低下した方に対して集中的にリハビリテーションを行う病棟です。

起き上がりや歩行などの基本動作、食事やトイレ動作などの日常生活動作の向上を目的としたリハビリテーションを行い家庭・社会復帰を目指します。



対象となる方

- ① 脳血管疾患、脊髄損傷等の発症又は手術後の方
- ② 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折又は手術後の方
- ③ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の方
- ④ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経・筋・靱帯損傷後の方

※1：廃用症候群：安静によって生じる筋力低下、関節可動域制限、起立性低血圧、心肺機能低下、精神機能低下等。



当院の回復期センターの特徴

- ① 病棟専従の理学療法士・作業療法士（必要に応じて言語聴覚士）が入院から退院まで継続担当します。
- ② 看護師は継続した担当制により、より細やかなケアに努めます。
- ③ 担当スタッフ全員が共通認識を持ち、一日も早い回復を目指すために、クリティカルパスを導入しています。患者さんに治療内容をわかりやすく説明し、十分に納得していただいた上で安心して入院できるように努めます。
- ④ 患者さんごとに月一回各スタッフが集まって合同カンファレンスを行います。情報を共有し、患者さんの変化に合わせて治療プログラムの変更などについて話し合います。

※2：クリティカルパス：入院中の治療・検査・リハビリ等の標準的な経過を記した入院診療計画表。



リハビリテーションスタッフ

専任医師、看護師・看護助手、リハビリテーションスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を実施します。スタッフ間で情報を交換し、共通の目的を掲げ家庭・社会復帰へ向けた支援を行います。



理学療法士

「起き上がり」「立ち上がり」「移乗」「歩行」などの生活に必要な基本動作のリハビリを主に行います。実際の生活場面である病棟でも訓練をすることによって、より生活に沿った訓練が実施できます。基本動作の獲得を通じて、家庭・社会復帰に向けて支援していきます。



作業療法士

主に手や腕を中心とした身体機能の改善、食事やトイレ動作などの日常生活動作のリハビリ、各種動作を行いやすくするための自助具の紹介や生活空間の配慮などを行い、より自立した生活に向けた援助を行います。また、様々な手工芸などを通じて趣味の獲得を促し、退院後も活動的な生活を送る事ができるよう配慮していきます。



言語聴覚士

ことばと飲み込みのリハビリを行っています。主な対象患者さんは、脳損傷によりことばが出てこない（失語症）、呂律が回らない（構音障害）、ごはんが飲み込みにくい（嚥下障害）などの症状がある方々です。各々の症状に応じたコミュニケーション方法や食事方法などについて助言します。



ケースワーカー

患者さんが安心して治療を受けられるよう、患者さん・ご家族と各スタッフ間の連絡、調整にあたります。また障がい認定、介護保険等の手続きや、治療費について、転医や施設入所など退院に向けての相談などもお受けいたします。患者さんの視点にたち、一緒に考えていきます。



入院から退院までの流れ

患者さん・ご家族

医 師

ケースワーカー

入院のご相談

ケースワーカーにお電話の上、紹介状と経過報告書を FAX もしくはご持参下さい。入院の可否の決定後、ベッド調整の上、入院日のご連絡をします。お気軽にお問い合わせ下さい。

入院日

お約束の時間までに、1 階受付窓口までお越し下さい。ケースワーカーより、入院に関してのオリエンテーションを受けていただき、病棟へ上がっていただきます。

リハビリテーション 評価

リハビリテーションスタッフが患者さんの状態を把握し、今後の治療プログラムを検討します。

合同カンファレンス

各スタッフが話し合って一人ひとりの患者さんの目標（ゴール）を設定し、リハビリテーション総合実施計画書を作成します。そして、退院後の生活にも焦点をあてて、各スタッフが総合的にかかわります。また月一回、合同カンファレンスを実施し患者さんのリハビリの進行状況に応じてゴールを見直します。

リハビリテーションの 実施

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士により、患者さんに合った機能訓練や日常生活動作指導を行います。

リハビリテーション 評価

リハビリテーションスタッフが患者さんの状態を把握し、今後の治療プログラムを検討します。

退院の準備

ケースワーカーが患者さん・ご家族の意向に沿って、退院に向けた相談を承ります。

退院

在宅生活への復帰・施設入所など。

生活の場としての病棟

私たちと共に、一日も早い家庭・社会復帰を目指しましょう。

日常生活を送る上で必要な動作の円滑化を行い、家庭・社会復帰に向けて支援していきます。その為に、決められた訓練の場だけでなく、病棟という生活の場でもリハビリに取り組んでいただきます。この日常の場を含んだリハビリによって、より早い、また生活に沿った回復を目指し、退院後の生活に向けてバックアップいたします。

チーム医療として、患者さんそれぞれの課題に取り組む中で、看護も継続性と一貫性が図れるように担当制をとり、チーム医療の中で中心的役割を担っていきます。長期にわたってリハビリに取り組む場として、病室は車いすの生活でもゆったりと快適に過ごせるよう、十分なスペースと機能を備えています。

一方浴室等は退院後の家庭生活を想定し、あえてバリアフリー設備の使用を控え、家庭に近い状況を設定しています。患者さん一人ひとりの家庭・社会生活への復帰を目指して、個々に合わせた看護が提供できるように努めています。



回復期病棟に入院される患者さんへ

リハビリをするために必要なもの

- ☐  ジャージ上・下
またはトレーナー・スウェット類
- ☐  靴下
- ☐  運動靴
(できればズック・上靴のようなもの)

整容に必要なもの

- ☐  くし（ブラシ）
- ☐  電気ひげ剃り器（男性のみ）
- ☐  歯ブラシ、歯磨き粉